



子ども大学かわごえ

CUK だより

第 40 号 NO.121208

2013 年 3 月 30 日

日時 : 2012 年 12 月 08 日 (土) 14 : 00 ~ 16 : 00
 場所 : 東京国際大学 第 1 キャンパス
 テーマ : 生きる力を測定しよう !
 講師 : 信州大学 教育学部長 平野吉直教授

はじめに

[何人の友達を知っているか?新しい友達を作るゲーム]

- ①手を叩いた数だけ組になる→手を 2 回叩いて 2 人組になる。
 2 人でジャンケン→負けた人が勝った人の周りを 3 周する。
 2 人でジャンケン→負けた人は勝った人の指した所をタッチしてくる。
 2 人でジャンケン→負けた人は勝った人の前で 10 回ウサギ飛び。



- ②6 人組になる→全員で手をつなぐ。
 6 人で手をつなぎながら先生の号令で前後左右に動く。
 6 人で手をつなぎながら先生の号令と逆に前後左右に動く。
 6 人で手をつなぎながら先生の号令とは逆の事を言いながら前後左右に動く。

- ③5 人で組になる→片手でゴムひもを掴む。
 互いに考えながら、ゴムひもを☆の形に出来るか?



第 1 時限 生きる力って何?

(1)アイスブレイクゲーム

アイス : (心の)氷→ブレイク : 壊す
 アイスブレイク : 心の氷を壊す
 =心の壁を取り除く

心と身体のウォーミングアップ

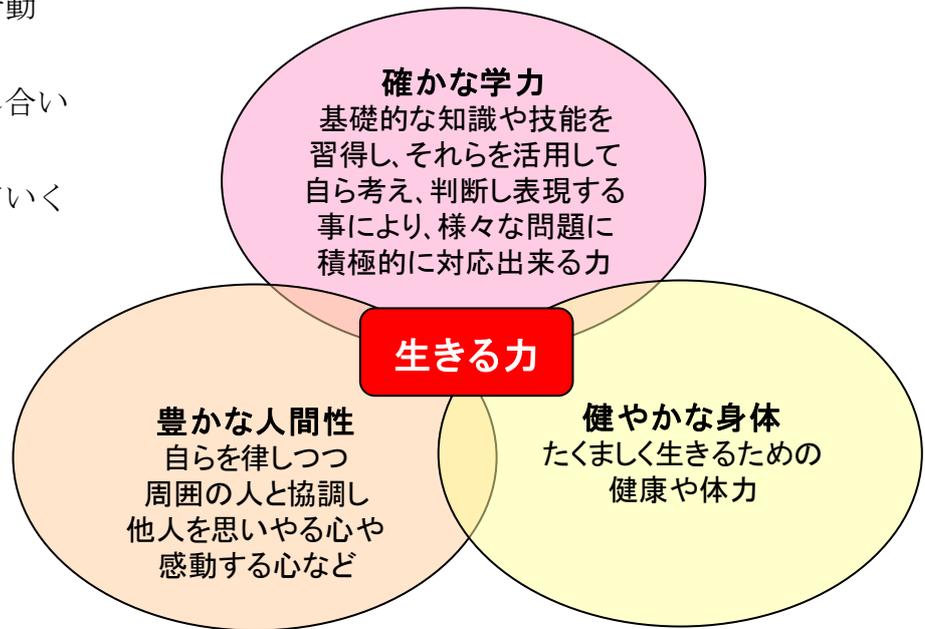
- 身体を動かす
 - 声を出す
 - 笑う
- } 心と身体がほぐれる

(2) A S E (Action Socialization Experience)

社会性を育てる体験活動

グループで

- アイデアを出し合い
- 協力をして
- 課題を解決していく



(3) 信州大学教育学部 野外教育コース授業(野外活動インストラクター、ガイドの養成)

①北アルプスの縦走登山実習

- ・どうやったら安全に登山が出来るのか?
- ・気圧低下環境の実習

②妙高高原雪上キャンプ実習

- ・雪の層の勉強
- ・雪洞の体験
- ・雪を使って舞台を作った…歌を唄ったり劇をした
- ・バックカントリースキー(スキー場以外のスキー)の体験
- ・熊棚(熊が餌を食べた後に出来る折れた枝の積層)の観察

- ・自然の危険を学ぶ
- ・グループで協力して困難に立ち向かう学習

③沖縄海浜キャンプ実習

- ・サンゴの破片、貝殻でシーサーを作った
- ・カクレクマノミ…熱帯魚の観察
- ・素晴らしい自然の体験

(4) 信州大学公開講座

①子どもキャンプ教室

- ・子ども達への指導実習
自然の中でのふれあいゲーム
…子供同士のコミュニケーションを強化する。
- ・野宿体験
- ・自然の樹木を利用した工作教室、草木染め、キャンプファイヤー

- ・色々な活動を通じて生きる力を養う
- ・勉強だけでなく自然の中で色々な体験が必要

②幼児キャンプ教室

- ・子供たちが自らテントを組み立てる。
- ・川遊び、飯ごう炊さん、登山(標高差 500m 道のり 9km)、雨天活動

第2時限 生きる力を考えてみよう!

(1) 自然の中で色々な体験をする事が大切 → 体験を通じて学ぶ事とは?

- 野菜作り…無農薬、有機栽培(マキの灰や残飯を肥料にする)

体験談

ある先輩がホウレン草、サニーレタス、キャベツ、青梗菜、赤カブを無農薬栽培したら
2品種だけ害虫の被害が無かった。

ホウレン草……アカザ科 } 害虫被害無し
サニーレタス…キク化 }

キャベツ }
青梗菜 } ..アブラナ科→害虫に葉を食べられた→翌年から植えないようにした。
赤カブ }

☆農業体験で学んだ。

同じような
花が咲く

☆自然の中で学ぶ事は多い。

子供達への体験調査

- 都市部と農村部の子供達の差があまり無い。
- CUK の学生は比較的虫を捕まえたり、星空を観察している事が判った。
- ◎自然体験の多い子は生きる力が強い事が判った。

(2) 子供体験調査

①H10年度 都市部と郊外に住む子供の体験調査

内容	何度もある		少しある		ほとんどない	
海や川で泳いだこと	58	56	32	32	10	12
昆虫を捕まえたこと	50	57	32	30	18	13
海や川で貝を取ったり魚を釣ったこと	39	44	38	37	23	19
野鳥を観たり鳴き声を聞いたこと	36	44	38	35	26	21
夜空の星をゆっくり眺めたこと	30	36	46	44	24	20
キャンプをしたこと	26	25	31	35	43	40
大きな木に登ったこと	22	21	32	33	46	46
日の出や日の入りを見たこと	21	24	43	43	36	33
歩いて高い山に登ったこと	13	10	30	29	57	61

都市部に住む子供
郊外に住む子供

単位:% 合計:100%

②年度別 子供の体験調査

内容	何度もある			少しある			ほとんどない		
海や川で泳いだこと	60	42	40	30	32	30	10	26	30
昆虫を捕まえたこと	50	35	32	31	30	27	19	35	41
夜空の星をゆっくり眺めたこと	33	26	33	45	39	41	22	35	26
キャンプをしたこと	27	20	18	34	28	26	39	52	56

H 10 年度
H 17 年度
H 21 年度

単位:% 合計:100%

(3) 長期キャンプ前後の子供 IKR(生きる力)評価の比較

長期キャンプの効果が現れた。

☆自然体験活動をたくさんした子供たちは…課題解決能力や豊かな人間性など「生きる力」がある。

☆自然体験活動をたくさん行った子供たち

解らない事はそのままにしないで、調べる事が多い。

誰とでも協力してグループ活動が出来る。

相手の立場に立って考える事が出来る・・・などの項目に「当てはまる」と回答した子供が多い。

○A 子さんの体験談

小学1年～5年生まで登校拒否だった子が小6で長期キャンプに参加して変わった。

中学からはキッチンと学校へ通えるようになった。

そして高校生になったらキャンプへボランティアとして参加してくれた。

→自然は人を大きく変える力を秘めている。

◎長期キャンプの成果：ピンチや苦勞が子供を成長させる。

調査対象：小学4年生～中学3年生まで(1,279名)

調査方法：長期キャンプの前後で IKR 評定調査

分析結果：①期間は長期(14泊以上)が効果大

②宿泊は殆どテントが効果大

③食事は殆ど自炊が効果大

④天候は厳しい日が多い方が効果大

(4) 自然体験活動が子供の成長に及ぼす効果

- ・生きる力が身につく
- ・大脳が活性化する
- ・何事も自信を持って行動できる
- ・自然の不思議さや大切さを知ることが出来る
- ・協力や仲間の大切さを学ぶことが出来る

まとめ

アメリカのベストセラー作家・海洋学者

レイチェル・カーソン 「沈黙の春」

「センス・オブ・ワンダー」の作者の言葉

「知ること」は「感じること」の半分も重要ではない。

IKR評定調査

No	評価内容
1	嫌な事は嫌とハッキリ言える
2	人の為に何かをしてあげるのが好きだ
3	先を見通して自分で計画が立てられる
4	暑さや寒さに負けない
5	誰にでも話しかけることが出来る
6	花や風景などの美しいものに感動する
7	多くの人に好かれている
8	人の話をキッチンと聞くことが出来る
9	自分の事が大好きである
10	ナイフや包丁などの刃物を上手に使える
11	自分から進んで何でもやる
12	嫌がらずによく働く
13	早寝早起きである
14	自分勝手なわがままを言わない
15	小さな失敗を恐れない
16	人の心の痛みが解る
17	自分で問題点や課題を見つけることが出来る
18	とても痛いケガをしても我慢できる
19	失敗しても立ち直るのが早い
20	季節の変化を感じる事が出来る
21	誰とでも仲良く出来る
22	その場に相応しい行動がとれる
23	誰にでもあいさつが出来る
24	洗濯機が無くても手で洗濯できる
25	前向きに物事を考えられる
26	自分に割り当てられた仕事はキッチンとやる
27	身体を動かしても疲れにくい
28	お金やモノのムダ使いをしない

1. そう思う
 2. ややそう思う
 3. あまりそう思わない
 4. そう思わない
- の4ランクの累積点評価

以上

子ども大学かわごえ

学長 遠藤克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ

〒350-1109 川崎市霞ヶ関北 3-12-6

霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991 (事務局直通)

FAX 049-233-1640F

E_MAIL info@cuk.or.jp